



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



クリスマスの思い出

小西 広志 神父

今から十年以上も前のことです。しかし、時々、思い出しては胸が痛くなる出来事がありました。

群馬県のある教会でクリスマスの準備の黙想会を頼まれたときのことでした。その教会は、ごくわずかの日本人信徒と大多数の外国籍の信徒から成り立っていた共同体でした。主日のミサには多くの外国籍の子どもたちも参加していました。ミサの説教で、わたしは子どもたち向けのクリスマスの準備の話をしました。

「クリスマスのお話しはね、教会学校で学ぶもんじゃないんだよ。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんからお家で教えてもらおうだよ」と話しかけました。わたし自身もクリスマスの物語を絵本や親からの語り伝えて身につけました。救い主イエスさまの誕生はこうして人から人へと口を通して伝わるのです。次に「クリスマスの飾り付けは手伝いなさいよ。みんなのお父さんお母さんが子どもの頃から大切にしてきたクリスマスの飾り付けがあるから、教えてもらいなさい」と呼びかけました。日本のクリスマスはツリーやら、リースやら、なんかどこかから借りてきたような飾り付けですが、国ごと地域ごとにクリスマスの祝い方があります。その教会にはベトナムの子どもたちがたくさんいました。ベトナムでは大きな大きな星を家の前に飾ります。また、南米ペルーの子どもたちもいました。彼らの文化、大切に継承してきたクリスマスの楽しみ方があります。そういったものを親から子へと伝えてほしいと願って話しました。そして「二十四日のクリスマス・イブは教会に来てほしいのは確かだけど、神父さんとしては家族みんなで食事をしてほしいです」と言いました。どの子どもたちも、決して裕福ではありません。中には学校でいじめに遭っている子どももいました。そして何よりも気の毒なのは、普段からこの子たちは家族がそろって食事をする機会がなかったのです。親たちは朝から晩まで働きます。子どもが学校から帰ってきても「おかえり」を言ってくれる人はいません。ベトナム人の家族は母系家族ですから、おばあちゃんが家を守っている場合もありますが、そんな家族はまれです。大人たちは言います。「わたしたちは子どもたちのために朝から晩まで働いているの」。しかし、子どもたちの本音は「お母さんと一緒にいたい」。そんな子どもたちが淋しさを紛らわすために同じ仲間同士で集まります。集まれば、やらかすことはだいたい決まっています。外国籍の子どもたちの行動が地域の人々の批判的となっていました。せめて、クリスマスの夜ぐらいは家族で過ごしてほしいと考えてのお願いでした。最後に「楽しいクリスマスの晩を過ごしてほしいけれど、ちょっと目を世界に向けてご覧なさい。本当に苦しんでいる子どもたちはたくさんいるんだよ。そんな子どもたちのところにも、幼子イエスさまがいらっしゃるんだよ。いやそんな子どもたちだからこそ、幼子イエスさまは、そこに行きたいんだよ」と締めくくりました。

モノとおカネだけに関心のある家族。それは日本の社会で生き抜くためには必要な生き方でしょう。日本人こそがモノとおカネに踊らされています。クリスマスを家族と過ごすのは確かに素晴らしいけれど、自分たちさえよければ満足という考え方へとつながります。日本語以外の言語を知っている、日本以外の文化と風習を知っているこの子どもたちは、確かに生活は苦しいでしょうけれど、他者への限りない愛を示す可能性を秘めた子どもたちです。少なくとも違う文化への理解と共感を備えた子どもたちです。小さいうちから自分たち以外の様々な人々を知っておいてほしいという思いから、わたしはこのように話しました。

「どんな子どもたちのところにも幼子イエスさまはいらっしゃる」という発言を聞いていた、一人の男の子が「俺のところにはこないから」とつぶやいていたと聞かされたのは、その黙想会が終わって教会の主だったメンバーとお茶をしているときのことでした。そのつぶやきを聞いた女性の信徒の方はとてもショックだったそうです。つぶやいた本人は中学生だったそうです。わたしも驚きました。そして少し偉そうに子どもたちに話しをしてしまったことをとても恥ずかしく思いました。「俺のところにはこないから」は、彼の本音だったでしょう。どんな思いで彼はつぶやいたのでしょうか。彼の生活はどんなものなのでしょう。彼は何といま闘っているのでしょうか。そんな疑問がわたしのところに浮かんできました。

あれから、十年以上が過ぎました。その子も立派な青年となったことでしょう。「偉そうな話をあの時してしまって、ごめんなさい」と彼に赦しを願いたいのです。そして、「今は幸せかい？」とたずねたいです。「イエスさまは、あなたたちを幸せにしたいんだよ。少なくとも、あの時の君の悲しみと苦しみをイエスさまは受け取りたかったんだよ」と伝えたいです。そして、「神父なんて、こんなことしか言えない無力な存在なんだよ」と頭をさげたいです。

クリスマスおめでとうございます。すべての人に幼子イエスさまがいらっしゃいますように。